府中ホスピスを考える会通信　第5号 05/11/26

「通信」第５号によせて

小西厚子

平成１７年度の「府中ホスピスを考える会」の勉強会は他の会に便乗して行いましたので、会員の多くの皆様に参加していただけなかったと思います。そこで、この第５号はその報告を中心に記事を組みました。

９月２３日のピースハウス病院オープンハウス見学会には６名参加。

９月２４日の多摩らいふ倶楽部主催講演会・対談「地域で生きる－尊厳ある生と死を求めて」には、考える会からの参加申し込み者は１０名。

１０月３０日の聖ヨハネホスピスケア研究所主催講演会「いのちと響き合う絵本」には１６名参加。聖ヨハネホスピスケア研究所講演会へは、前回参加した会員には研究所から直接ご案内があって個人で申込みをして参加された方もいらっしゃいました。

参加された会員の皆様は、いろいろ学ぶことが多かったと思います。来年度もこうした近隣の講演会などの情報を会員の皆様にご紹介していきます。

考える会の会員としての私は、いろいろな機会を通して終末期医療としてのホスピス、人間にとって避けられない死の問題、とくに１０年後には２人に１人が癌で死亡すると言われている国民病の癌（癌は細胞分裂での突然変異で、高齢化が進み寿命が長くなると細胞分裂の変異が起こりやすくなるとのこと）について学んで、知識を得て自分の将来に備えたいと考えています。

１１月２６日は、以前からお願いしていてようやくご講演をお願いできた東府中病院院長でまた考える会顧問の十蔵寺新先生に『更年期障害と子宮癌』についてお話していただきます。十蔵寺先生にお世話になった（ている）府中の女性は大変多いと聞いています（１９７２年に開院以来の出生数は２万人余りとのこと）。そして子宮癌は女性の癌として年齢に関係なく罹患率の高い癌です。先生のお話を注意深く拝聴したいと楽しみにしています。

また、聖路加国際病院名誉理事長日野原重明先生が今年の文化勲章を受章されましたことを考える会会員一同とともにお慶び申し上げます。考える会はいろいろなかたちで日野原先生にお力をいただいており、先生のますますのご健勝とご活躍を祈っていますことをここに書き添えさせていただきます。

声

ピースハウス病院　オープンハウス見学記

池田 綾子

９月２３日（秋分の日）午前８時１５分、市村晴子さんの車で出発、東名高速の事故による渋滞で予定より１時間余りおくれて１１時半ごろピースハウスに到着しました。富士山を仰ぐ緑に囲まれた草花の咲く家庭的な静かなたたずまいの施設がありました。多くの見学者で賑わっていました。順番に１０人位のグループに分かれボランテアの方の案内で見て廻りました。

屋内に小さな坪庭の様なものがあり四季折々の花を咲かせている由、私達が行った時にはオンシジュムの黄色があざやかでした。展示場、病室のモデルルーム、訪問看護の実態等々、最後に市村さんから是非見てほしいと言われた緑の芝生の岡を散策しました。この芝生が病室の患者さんの目線では、あの岡の向こうには何かがあるような……

一歩でも二歩でも歩いて行って見たいと前向きに思わせる配慮がある様な……静かで暖かい雰囲気が感じられ、死を前にしてどんなにか心の葛藤があるでしょうが、スタッフの方々のサポートで穏やかに過ごされていられるのでしょう。

こんな施設がこの府中にも作られたら良いですねと……行きとは違いスムーズに走る帰りの車中で話し合い感謝の一日でした。

＊ピースハウス病院は日野原重明 聖路加国際病院名誉理事長によって、日本で最初の独立型ホスピスとして１９９３年に開設された。場所は神奈川県足柄上郡中井町井ノ口にある。

五十嵐 七美

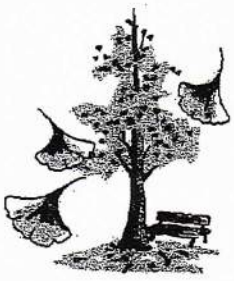
ピースハウス病院を見学させていただき、環境の良さにまず驚かされ、施設としては、富士山の見える明るくゆったりとした雰囲気でした。

案内をして下さった方も、物静かな優しさに、教育の行き届いていることを感じました。

施設の方針も「患者さんと家族が、その人らしく、人生にもっとも大切な時間を過ごされるように」ということで日々努力され、心身の自然を大切になさっているとか。私も府中はなみずきの会会員の一人として、一針ですがお役にたっていることが嬉しかったです。

理想的なハウスを見学させていただき、こんな施設が府中にもあれば、どんなに心強いことかと、帰りの車中で話合いました。

＊府中はなみずきの会はピースハウスの介護用品を作成してサポートしている会です。



「地域で生きる―尊厳ある生と死を求めて」に参加して

駒ヶ嶺 泰秀

９月２４日（土）午後１時より３時まで、「パレスホテル立川」において聖ヨハネホスピスケア研究所所長山崎章郎先生と、立川市内に開業の井尾クリニック院長井尾和雄先生による講演と対談がありました。昼頃から俄かに降り始めたドシャ降りの雨にもかかわらず会場は後ろの方には沢山の人が立つほどの入場ぶりでした。さて、井尾先生は現在立川市内で３６５日休日なしで毎日、在宅ケアの往診に自動車を使って走り回っておられるということと、今なぜ在宅による看護と看取りが必要なのか、というと、それからこれまで診てこられた患者さんの具体的な実例を熱く語られ、深い感動を与えられました。先生が在宅ケアの仕事に携わることになった原点にも触れられ、聴く私たちを強く引き付け、使命感に燃えて日々患者さんと接している姿勢に、なるほどと納得したことでした。

私も３年前に家内を癌で亡くしました。最期が近づいてきた時「家で死にたい」と何度か言ったことがあり、そういう医師を分厚い本を購入して随分捜しました。また直接個人病院に電話してお尋ねしたこともありました。結局、小金井の聖ヨハネホスピスのお世話になり、そこで命を終えましたが、初めてホスピスを訪ね、先生に「何か希望がありますか」との質問に「家で死にたい」と応えたのでした。府中にも井尾クリニックのようなところがあればいいのにな、と講演を聴きながら思いました。

山崎先生のお話は、ホスピス医になられたご自身の略歴と１０月から開設される「ケアタウン小平」の全貌をスライドを使いながらの説明でした。私が一番心惹かれるのは、先生はいつも、その時々の現在に満足することなく、常に前向きに一つ一つ問題を解決して新しいことに挑戦しておられることです。「ケアタウン小平」に先生の理想を追う姿を実感します。

柳田邦男氏　講演『いのちと響き合う絵本』をきいて

荒川 京子

平成１７年１０月３０日（日）、なまり色の雲のたれこめた晩秋の午後、小金井公会堂に満員の聴衆を前に、柳田先生の講演は行われた。うす暗い演壇の片隅に立った長身の先生の白髪がきわだち、静かに話し出された。

「現在、私が一番憂いていることは、母親が子育てをテレビに任せてしまっていることである。私は現在ノーテレビ運動（テレビを見ない時間・日を持つ運動）を拡げている。テレビを全面的にいけないとは云わないが、テレビを見ない生活はゆったり時間が流れ、親子の対話が生まれ、その中で子どもたちにたくさんの絵本を読みきかせるのである。それは言葉と、絵と、肉声が子どもの心を育て感性を豊かに育むものである。」と、絵本を使っての命、人生のお話をされた。スライドを使って先生ご自身が感銘を受けた数冊の絵本を先生の感性で深く掘りさげ、ほのぼのとした情景の中に多くを語らず胸に響くのであった。なかでも先生の翻訳された『だいじょうぶ』は、小さなネズミと年老いた象のほのぼのとした交流の中で、生を受けたものが必ず死を迎えるやるせなさを主題にした絵本。でもネズミの「だいじょうぶだよ」の声に年老いた象は、静かに次の世界へと旅立っていく。死はすべての終りではなく、必ず次の世界へ命は継続してゆく。

終りに谷川俊太郎氏の『夏の朝』、そして『千の風』の朗読で、二時間に及ぶ講演は終わった。

その夜の私は床に入ってもなかなか眠りにつくことが出来なかった。ゆったりした時間をもって家族に接することなく、ただただ年齢（とし）を重ねて来たのではなかろうか。いずれ訪れる自分の死を静かに受け止めて、次の世界に命を継続してゆく豊かさが自分にあるだろうかと……。

府中ﾎｽﾋﾟｽを考える会講座実施歴

	日付	テーマ	講師
特	01/10/28	がんと向きあったとき、あなたならどう生きますか	聖路加国際病院名誉理事長　日野原 重明
1	02/02/17	「ホスピスの体験から」	ピースハウス病院ナース　杉本 真由美
2	02/04/28	「在宅ﾎｽﾋﾟｽケアについて」	ピースハウス病院ナース　杉本 真由美
3	02/07/14	「緩和ケアで使われる薬について」	薬剤師（元ピースハウス病院職員）　玉井 照枝
特	02/10/11	アサヒタウンズ特別講演会「日野原先生」	
4	02/11/24	「心と身体の痛みを癒すには」	くらしき作陽大学教授　篠田 知璋
5	03/05/18	地域に密着した在宅ケアについて	平林医院院長　平林 竹一
6	03/06/10	ホスピスセミナー	桜町聖ヨハネホスピスケア研究所長　山崎 章郎
7	03/08/03	「ヨーロッパのﾎｽﾋﾟｽ事情」	府中ホスピスを考える会副会長　市村 晴子
8	03/10/26	家で最期をむかえるために―在宅ﾎｽﾋﾟｽケアの実際	ホームケアクリニック川越院長　川越 厚
9	04/04/18	「家族の立場からﾎｽﾋﾟｽケアを見る」	府中ホスピスを考える会会員　駒ヶ嶺 泰秀
10	04/09/10	輝いて生きる―人生の後半を―	聖路加国際病院名誉理事長　日野原 重明
11	04/11/07	コミュニティで考えるこれからのﾎｽﾋﾟｽケア	聖ヨハネホスピスケア研究所研究員　長谷 方人
12	05/06/05	夫をガンで見送って―入院治療3ヶ月後の不安―	府中ホスピスを考える会会員　桑山 レイ子
特	05/09/24	地域で生きる―尊厳ある生と死を求めて―	聖ヨハネホスピスケア研究所長　山崎 章郎 他
特	05/10/30	いのちと響き合う絵本	ノンフィクション作家　柳田 邦男
13	05/11/26	更年期障害と子宮癌	東府中病院長　十歳寺 新

親父の小言。火は粗末にするな。人には腹を立てるな。恩は遠くから返せ。人には馬鹿にされていろ。年忌法事は怠るな。家業には精を出せ。人には貸してやれ。ばくちは打つな。火事は覚悟しておけ。戸締まりに気をつけろ。何事も身分相応にしろ。人の苦労は助けてやれ。年寄りはいたわれ。初心は忘れる勿れ。借りては使うな。不吉は言うべ可ら須。難渋な人には施せ。義理は欠かすな。貧乏は苦にするな。怪我と災いは恥と思え。小商いものは値切るな。大聖寺暁仙僧正為

会計より会員の皆様へのお願い　会費の払い込みをどうぞよろしくお願いします。勉強会・講演会等当日でも、郵便局への振込でも結構です。振込用紙ご入用の方は、会計までご連絡いただければお送りいたします。

会計　宇田ひさ子　042－363－9271

編集後記　今年の夏は酷暑、秋は台風と、そして何時の間にか師走を迎える今日このごろ、会員の皆様にはお元気でお過ごしでしょうか。「通信」５号をお届けします。会についてのご意見や勉強会へのご要望など、皆様のご投稿をぜひお寄せください。

「通信」編集委員　荒川京子、小西厚子、滝山満子、和田総一郎

発行元　府中ホスピスを考える会編集部　連絡先　小西厚子 042-351-4583